

平成30年度 栃木市広島平和記念式典中学生派遣報告会（H30.8.24）

「平和記念式典への参加」 C班

・平和記念式典について 田島春成（藤岡第一）

広島派遣学習の二日目の8月6日、僕達は平和記念式典に参加するため、平和記念公園へ行きました。平和記念公園は多くの人で埋め尽くされていました。式典は、厳粛の中執り行われ、73年前原爆が投下された8時15分、「黙とう」の合図とともに参列者全員で黙とうを捧げました。同時に鳴らされた平和の鐘はとても心に響くものでした。式典には被爆された方やご遺族、安倍首相を始め広島市長、各国の代表などが参列しました。式典の中で広島市長によって行われた平和宣言は世界各国に向けて、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を訴えていました。

また、小学校6年生2人が子供代表として「平和への誓い」が行われ、最後は参列者全員でひろしま平和の歌を合唱し、式典が終わりました。その後、平和記念公園内にある原爆死没者慰霊碑に献花をしました。

・参加して心に残ったこと① 岡本凜（寺尾）

広島派遣二日目、私たちは、平和記念式典に参加しました。

平和記念式典が始まる頃には、私の想像をはるかに超えたとても多くの人々が平和記念公園に集まっていました。この人の多さに私は驚きました。日本人だけではなく、外国の方も多くいました。73年前にこの場所で起きたことが、どれほどのことだったのかを思い知らされたような気がしました。特に、広島市長による平和宣言やこども代表による平和への誓い、黙とう、平和の鐘が行われたときには式典中に行われたこと一つ一つが心に残りました。「もう二度と73年前のようなことが繰り返されてほしくないし、私たちが平和な世界をつくっていかなければならない」と強く思いました。ここで学んだことを忘れず、これからは生かしていきたいと思います。

・参加して心に残ったこと② 齋藤彩葉（大平）

「平和な世の中に生まれてよかった。」これは、私が広島平和記念式典に参加したときの正直な気持ちです。今私たちが何の不自由も無く毎日笑って過ごしていただけることは、当たり前ではないということが分かりました。73年前、広島に原子爆弾が落とさる前は広島の人々も私たちのように毎日楽しく過ごしていたはずですが、それがたった一発の爆弾で一瞬にして人々から笑顔を消し去ってしまったのです。今でも世界では争いごとが絶えません。私たちもいつ争いごとに巻き込まれるか分かりません。だから今笑って過ごせていることに感謝して毎日を過ごしていこうと思いました。原子爆弾によって何十万人もの命が奪われました。人の命は原子爆弾や核兵器によっても簡単に無くなってしまいます。そ

れを無くすには世界からそういったものを無くすことが必要です。それでは今の私たちにできることはどんなことでしょうか。それは、「命を大切にすること」「命の尊さをしっかり理解して生きていくこと」だと思います。その気持ちを世界中の人々、一人一人が持つことによって核兵器は無くなり、平和な世界になると思うのです。最後に感じたことを一人でも多くの人に伝えていくことを誓い、一生懸命に生きていくことを決意しました。

・参加して心に残ったこと③ 村上和花（栃木南）

私が、この平和式典に参加して心に残ったことは、小学生が行った平和への誓いについてです。

平和への誓いの言葉の中に、「苦しみや憎しみを乗り越え、平和な未来をつくろうと懸命に生きてきた広島の人々」という言葉がありました。もし自分が、原子爆弾が投下された場所に居て、大切な人を亡くしてしまったら、苦しすぎて生きていく自信をなくしてしまいます。しかし、広島の方々は、決してあきらめようとせず、逆に平和な未来のために行動していることが、本当にすごいと思います。

このような言葉を大人が言うのではなく、私ぐらいの年の人が言うことに意味があると思います。今、被爆者の方々が減ってきて、何も分からないまま成長するよりも、話を聞いて自分から広めていき、歴史を学んでいけば良いと思います。

・参加して学んだこと① 阿部瑛斗（皆川）

平和とは、自然に笑顔になれること。平和とは、人も自分も幸せであること。平和とは、夢や希望をもてる未来があること。という言葉が僕の心に飛び込んできた。これはこども代表の「平和への誓い」の一部です。

人類史上最初の原子爆弾は、多くの人々の命を奪っただけではなく、広島を街を一瞬にして破壊。戦後73年も経っているのに今なお、多くの人を苦しめ続けているという現実から目をそらさず、平和な未来をつくろうと懸命に生きてきた人々を見ているからの言葉であることがよく分かりました。

この式典に参加した多くの人々は、それぞれの国の歴史や立場は違うけれど、核兵器廃絶や世界恒久平和を望む気持ちは同じなんだと感じる事もできました。僕は苦しみや憎しみを乗り越え、必死に生きている人たちのことを忘れる事なく、再びあのような惨事が起きることのないように、今回広島で学んだ事を生かし、僕も世界平和に貢献したいです。

・参加して学んだこと② 大出菜歩（西方）

私が平和記念式典に参加して学んだことは、核兵器の恐ろしさと、今の生活が当たり前ではないということです。

平和宣言や平和への誓いで、73年前の光景が目に浮かんで来ました。焼けた町や助けを求め人々、泣き叫ぶ子どもなど、想像しただけでも恐ろしく、ゾッとしました。

そして、8時15分に、黙とうをささげました。そのたった1分の中で、罪なき多くの人々の命が失われたと思うと、恐怖しかありませんでした。

二度とこのようなことが起きないために、私は、より多くの人にこのことを伝えていかなければならないと思いました。そして、世界から核兵器がなくなることを祈って、式典で学んだことを忘れずに生活していきたいです。